

特集 部活動の地域移行

学校教育の一環として取り組まれてきた中学校のスポーツ・文化芸術活動が、変わり始めています。生徒が将来にわたって活動を持続けられるよう、持続可能な環境づくりが燕市でも始まりました。

問合せ 燕市教育委員会 学校教育課

☎0256・77・8191



持続可能な環境の整備

国では、これらの現状と課題をふまえ、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しめる機会を確保するため、適正な運営や活動の在り方と新たな地域クラブ活動を整備する対応について令和4年12月「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を示しました。そこでは、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識のもと、持続可能で多様な環境を整備し、生徒の体験の格差を解消することを旨とされています。

改革推進期間に位置付けられた令和5年度から令和7年度までの期間に地域クラブを整備し、休日の部活動を地域の活動に移行するよう推進しています。

休日の部活動を地域活動に移行

燕市では、令和3年度に「燕市部活動の在り方検討委員会」を設置しました。

そこで検討を重ねた結果、燕市教育委員会が主導し、運動部・文化部の全ての部活動において休日の部活動を地域クラブ活動に移行する方針をたてました。

環境整備のため、令和5年度に「未来いきいき地域クラブ」を設置し、休日の部活動を段階的に地域クラブ活動に移行する動きが始動しました。今年9月には、競技、活動回数を拡大した2期目の活動が始まります。(図3参照)



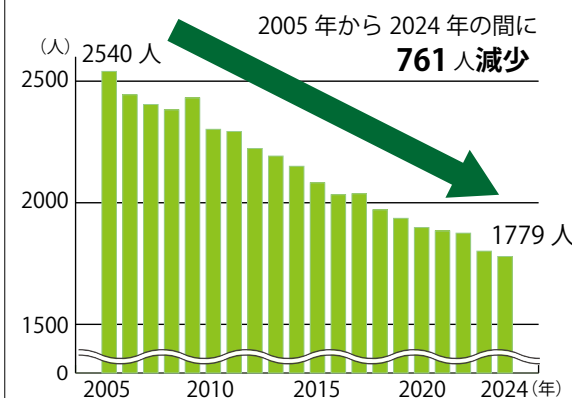
学校の部活動の意義

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、スポーツ・文化芸術に触れ、体力や技能の向上を図るといふ学校教育の一環として取り組まれてきました。

現状と課題

また、上級生や下級生、教員との人間関係の構築など、学校という環境における多様な学びの場としての位置付けもあります。

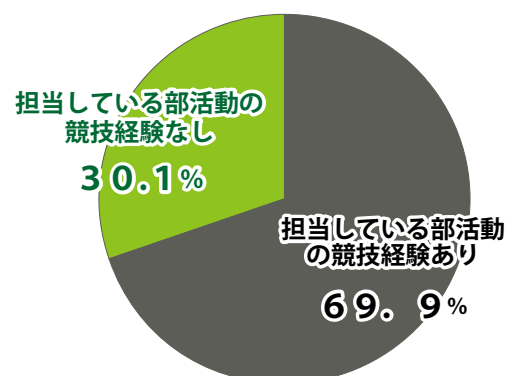
図1 市内中学生の生徒数推移



一つ目は少子化です。2005年には2540人いた市内中学生が、今年は1779人になり、19年の間に761人も減少しています。今後も生徒数の減少傾向は続きます。(図1参照) 生徒数が減少している中、学校単位では部員の確保ができなくなりつつあります。特に団体競技においては、学校単位でチームが組めない競技も出てきています。

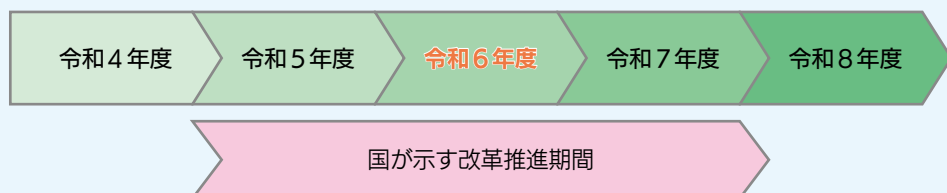
二つ目は、競技経験のある教員の不足です。専門的な知識を持っている教員を各部に配置できるとは限らず、競技経験のない教員が指導せざるを得ない状況にあります。日本スポーツ協会が行った調査では、部活動顧問をしている3割の教員が競技経験のない部活動を担当していることが分かりました。(図2参照) 三つ目は働き方改革です。教員が顧問を務める部活動では、平日の授業後や休日に部活動を指導しながら、授業の準備や担任クラスにおける業務をこなさなくてはならず、時間外に多大な負担が発生しています。

図2 担当している部活動の競技経験



出典：学校運動部活動指導者の実態に関する調査報告書（(公財)日本スポーツ協会,2021年）

図3 燕市で計画している部活動の段階的な地域移行<休日の活動>



休日の部活動を段階的に地域クラブ活動に移行



燕市の動き

